

H27 年度版 小杉ゼミ参加の手引き

書いた人；小杉考司

2016.04.01

1 まえおき；大学・ゼミ・小杉の用法

1. 小中高の「正解を当てるゲーム」とは違い、大学では「これが正解だと言い張るゲーム」に変わっています。「・・・ですか？」という問いはほとんど何の価値も持ちません。正解なんかないからです。「・・・に決まっている」から始め、「なぜならば・・・だからである」という理屈が通ることに意義があります。だから小杉ゼミでは「わかったふりをする」ことが一番嫌われます。自分はわかったふりをしていないか、と常に問いかけてください。
2. 「この公園では球技禁止です」と書いてあれば「じゃあフリスビーは可能なのね」と考えましょう。表層的に書かれていることを理解し（正しい解釈）、その背後にあるであろうロジックを理解して展開する（完全な間違い方、斜め上の考え方）ことで、世の中と対峙することが初めて可能になります。シニカルに「馬鹿馬鹿しいから守らない」という態度は下策で罪と罰しか生みませんが、「じゃあこれならいいよね」という態度は前向きで愛と笑いに満ちています。
3. 大学教員が「どうして？*1」と聞くのは「どうしてそのように間違えた答えに到達したか」という意味ではありません*2。正解なんかないからです。そうではなくて、「なぜそれが成立すると考えられるのか理由を教えてください」という意味でしかありません。
4. 「ペリーが1853年に浦賀に来航した」という知識は正しく、「ペリーが1985年に浦賀に来航した」という知識は誤りです。このように、知識には正誤があり、かつその知識を有しているかどうかという意味で、知識を有している方が有利であるような錯覚を覚えます。しかし、知識は調べればわかり、技術は身につければ駆使できることで、その有無に畏怖することはありません。必要であれば時間をかけ取得・習得すればよいのです*3。それを持っているのが大学教員ですので、しっかり利用してください。また、なるべく広く共有してください。その方が「自分と同じ話題で刺激しあえる」からです。そうした知識や技術を使ってあなたが思いつくことは、あなたの才能であり能力です。ひいては、そうした知識・技術を持っている人にアクセスできることが、あなたの才能であり能力です。だから小杉ゼミでは、他のゼミや大学院への進学を推奨します。

*1 関西弁では「何でやねん」という表現になることが多く、語感が良いのでツッコミにも多用され、語気が荒いと勘違いされますが、意味は「なぜですか」でしかありません。

*2 小さい子供は、多分に教育的なフォームで「どうして？」と聞かれることがあり、その都度子供たちは「どうして＝間違えているシグナル」という理解をしてしまいます。皆さんはもう大人なので、字義通りの意味を解釈してくれば結構です。

*3 知識や技能の取得・習得は、本人がその時間を費やすことでしか到達しないので、代行してあげるわけにはいきません。習得のルートや取得のコツを教えることはできますが、その時間を割こうとしないのは学ぶ者の態度としてふさわしくありません。教員は学生を「水飲み場まで連れて行ってやることはできるが飲ませることはできない」のです。

5. 理由を聞いたたり(「なんでやねん」)現状を把握したりするための質問(「どないなってるのん」「なにしてたん」)は、感情や態度と連動しない認知的なプロセスです。思考の道筋をたどり、現状を把握して、今後に向けて計画を立て、対応していくのが研究指導です。研究指導では、生産性がほとんど見込めないため、過去を振り返ることに時間を割きません。好悪の感情や受容的・拒否的態度と思考の連合をしないトレーニングをするのが大学やゼミという場です。
6. 例えば、インモラルな、暴力的な、過激な発言であっても一意見、一つの可能性として考慮し、そこを合理的に思考できるようにならなければなりません。そのため、小杉ゼミではそうした発言が飛び交うことが少なくありません。もっとも発言者と発言内容も切り離して考えるようにしてください。「このようなことを発言したら嫌われる」という間違っただけの思考で、発言が減ることはゼミの生産性を下げるからです。発言しても嫌われないし、あなたの嗜好性と関連付ける(「こんなエロいことを言う小杉は助平だ」)ことがないように注意してください*4これはディスカッションの基礎的なマナーとして、必ず身につけてください。
7. 人間は孤独で分かり合えない生き物です。他人と同じことを理解することは原理的に不可能だけど、それでも「心」という目に見えないモデルを仮定してその人とインタラクションしたい、というのが心理学者です。できることは「互いにわかった気になること」だけです。究極的には「好きなものは好き、嫌なものは嫌」という理由付けしかできなくなります。そのことと、他者と分かりあいたいという意思は相反しません。分かり合えないことがわかっているにもかかわらず、分かりあいたい我々のツールが言葉でありコミュニケーションで、これを駆使するのが研究者として生きるということです。
8. 他者は、自分の世界にない表現や言葉をもたらししてくれるもの。自らの世界にないものをもたらししてくれる人は、誰であっても構いませんし、どんなに奇抜な発言であっても、その人がどんな人物であるかというのは、内容以上の価値はもたないものと考えべきです。だから小杉ゼミではメンバーを固定する必要がありません。
9. 意見と感情は区別しましょう。嫌いな人が正しいことを言っている場合、嫌いだから考慮しないというのは、学術的に無益です。また、好かれるために間違えた意見を言うというのは、学術的には不誠実です。好きな人にも嫌いな人にも、(理屈という)筋を通すのが大切です*5。日常生活は非常にウェット=情緒的で、互いの気分を害さないことを目的とした関係調整的会話から構成されることが多いですが、ゼミの中では情緒的な単語や表現は一旦横に置いておく必要があります。そういう意味で、小杉ゼミは「厳しい」し、「共感性を欠いた」変人の集まりとして周りに映ることが多いようです。
10. 同様に、小杉ゼミは集団として仲良くなることを目的としていません。個人の世界を広げ、楽しんでいく結果として、仲良くなることより好ましいだけです。嫌われているかもしれないので参加・発言しないというのは、仲良くなることを第一義においているという意味で愚策、本末転倒です。あえていいですが、あなたは周囲に嫌われている「かもしれない」ではなく、間違いなく事実として嫌われています。そう仮定して行動する方がより適応的です。それでも「知りたい、わかりたい」「自分の世界を広げたい」のでゼミに参加するのです。

*4 例えば LGBT の心情や社会情勢を考察するとき、そうである必要はないし、そのことを考えているからといって当人がそうだというわけではありません(そうであっても意見に貴賤ありません。)

*5 特に小杉は他人を褒めるのが下手です。というのも、叱責の嵐を耐え抜いてでも自らの意見を言う強さを身につける、というスタイルで教育されてきたからです。それが自分には合わないなあ、という人にはホンマすんませんとだけお伝えします。

2 ゼミ・モットー

1. 感じるな，考える（Don't Feel. Think!）
2. 自由とは選択できることであり，思考はより自由に，より抽象的に，より客観的に。
3. 物事を考えるときは，完全に正しい解釈と，完全に間違えた解釈と，斜め上にある考えの3つを同時にもつように。
4. 人生の目標は二つに限定すべし。目標達成の過程で得られる副産物はすべて取り込むこと。
5. 罪と罰の精神ではなく，愛とユーモアへの精神をもつこと。

3 ゼミ活動の目的と心得

1. （定義）小杉ゼミとは心理学的技法を通じた人間理解のための修練の場の総体である。
 - （a）理解を阻む最大の障害は，自らの理解そのものである。
 - （b）個体は関係を結び止める点にすぎない。
 - （c）ゼミの境界は議論に参加するメンバーの相互作用にもとづき，創発的に現れるパターンである。
2. （メンバー）メンバーは個々が独立した研究者であり，このことが常に最大限に尊重され，年齢，性別，その他外的基準による判断は常に捨て置かれる。
 - （a）【今，ココ】の座標点として，個人は常に唯一無二であり，自分の思いつき以上に正しい答えなど存在し得ない。
 - （b）知識量や技術力に秀でたものは，惜しげもなく与えるべきである。なぜなら，仲間が面白くなることが自分の成長に繋がるからである。
 - （c）知識量や技術力に劣るものは，恥じることなく喜ぶべきである。なぜなら，今後の成長の可能性が具体的に現れているからである。
3. （発言の自由）いつでも誰にでも発言は許されているし，望まれている。
 - （a）発言内容を個人の人格に帰属してはならない。個人はただの結節点にすぎない。
 - （b）沈黙は「理解しないこと」と「同意したこと」を弁別しないため，避けるべきである。
 - （c）自らの発言（疑問）は他者の発言（疑問）であり，コミュニケーションのオートポイエティックな連鎖が幸福を生む。

4 思考の三大技術

1. 自らのいやがることを進んでせよ - 不安定は成長の準備状態である。
2. 極端から極端へのパン - 大砲を命中させるためにはどうすればよいか考えてみよ。
3. メタファーは景気よく - アイディアの発生原理は「異質なもの同士を結びつけよ」

5 活動内容とルール

- ゼミは主に文献紹介，研究発表に分かれる。さらにゲストの発表や学会のリハーサルなどのイレギュラーな予定が入ることもある。
- 研究発表（Progress Report）は各自の研究のプランやサーベイ，結果などの報告，討論のこと
- 文献紹介（Journal Club）は雑誌論文の紹介または関連研究文献のレビューのこと
- ゼミの終焉は議論が収束するまで。開催日時は競技によって決めます。
- 諸連絡は，LINE グループを通じて行なう。
- ゼミ生には小杉担当の授業（共通心理学，心理学統計法，心理教育測定法，教育心理学特論，社会心理学特論，心理統計法演習），集中講義にも，積極的に参加することを期待する。
- 去る者追わず来るもの拒まず。欠席は本人の不利益なので申告の必要なし。発表を担当するときの欠席は許されない。

6 卒業論文および修士論文の計画立案について

6.1 卒業論文の意義と内容

- 卒論は研究者としての潜在能力を示す論文である。
- 作成過程における自主的な学習，研究活動を評価する。
- 卒論は，日本心理学会などで広く公表し，現役の研究者とディスカッションを行うことができるレベルの論文としてのテーマ，方法，分析，考察が必要である（少なくとも，大学院進学希望者はこのレベルでなければならない）。
- 心理学の専門的知識が関係しない職業に就いた場合でも，卒業研究を通じて高めた企画力・実行力を活かすことを望む。

6.2 修士論文の意義と内容

- 修論は研究者としての成果を示す論文である。
- 修論は，専門雑誌に掲載されるレベルの論文として，テーマ，方法，分析，考察が十分であるかどうかを評価する。

7 学会に参加してみよう

学会は真偽のゲーム・プレイヤーの集まり。要は同人のお祭り。世界最先端の研究もすぐそこに。メリットは「世界が広がる」こと。デメリットは「参加費・旅費」だが，学会で発表する人には参加費・旅費の補助を考えています。その他，出来るだけサポートします。

地方学会＜全国学会＜国際学会の順に洗練された研究に触れることができるので，なるべく全国レベルの学会以上に参加するように。

8 研究論文の読み方～論文の種類をきちんと把握しておこう

1. 査読あり・査読なしの別

- (a) 査読(レフェリー)とは、事前に専門家集団(平均3名ほど)が審査することです。
- (b) 基本は掲載する方向で審査します。価値は読者が決めるものです。
- (c) 学会が出版しているのは基本的に査読あり, 大学が出版しているのは基本的に査読なしです。

2. 原著・資料・展望の別

- (a) 原著はオリジナルな発見がある論文です。
- (b) 資料は既成の成果に対する補足やまとめです。
- (c) 展望は最近の動向をまとめて今後の研究の方向性を論ずるものです。

ゼミで発表する資料は、査読ありの原著論文に限ります。

9 今年のスケジュール

イベント	日時	場所
ガイダンス	4月1日	行動監察室
新ゼミ生歓迎コンパ	未定	未定
次回 YUEP 読書会	5月中	未定
Hijiyama.R	5月28日	比治山大学
Kandai.R	6月18日	関西大学
夏合宿	未定	未定
International Conference of Psychology	7月24日-7月29日	パシフィコ横浜
行動計量学会大会	8月30日~9月2日	札幌学院大学
社会心理学会大会	9月17,18日	関西学院大学
教育心理学会総会	10月8,9日	香川大学
グループダイナミックス学会大会	10月9,10日	九州大学
中国四国心理学会	10月頃	東亜大学
九州心理学会	11月頃	福岡県西南学院大学
お歳暮交換会	12月頃	未定
ゼミ旅行	未定	未定
大ゼミ旅行	2020年7月24日	伊勢神宮

10 研究室プロジェクト・関連プロジェクト

10.1 ゼミのプロジェクト

- 日本における道徳基盤理論について
- 随時募集

10.2 小杉の研究関心

- 態度空間の三次元モデル
- 時系列的ソシオメトリックデータ
- 数理社会心理学の基礎研究
- 家族関係の多層データ
- 三者関係のバランスモデルについての記憶実験